

03 環境との共生

1 環境問題の顕在化

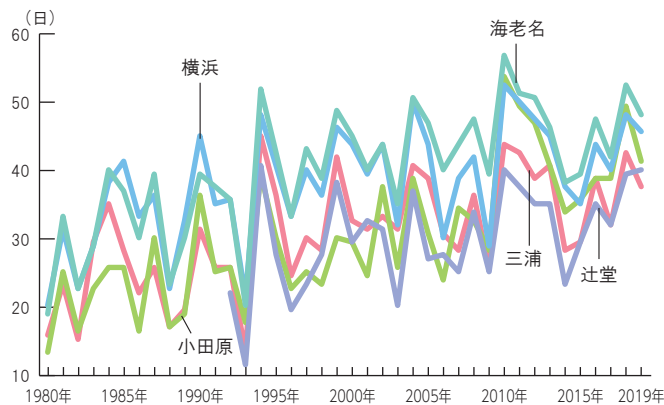
神奈川県内においても、環境問題は顕在化しています。県内各地の真夏日の日数は、1980(昭和55)年以降、年々増加傾向にあります。県内の複数の都市部においてもヒートアイランド現象が確認できており、人工排熱や地表被覆の人工化(緑の減少)、都市形態の高密度化が原因とされています。二酸化炭素排出量の推移をみると、1990(平成2)年度の基準年と比較して2017(平成29)年度では、業務部門で約1.9倍、家庭部門で約1.4倍になっています。

また、気候変動の影響などによる自然災害の発生、農作物への被害、動植物の分布域の変化などが顕在化する中、「パリ協定10」の発効など気候変動への対応が国際的に強く意識されています。

県においても、環境負荷の少ない都市づくりへの転換に向けて、次世代自動車の導入促進やグリーンインフラの取組み、再生可能エネルギーの普及促進などに取り組んでいるところであり、地域における温暖化対策をより一層進めていく必要があります。

地球温暖化

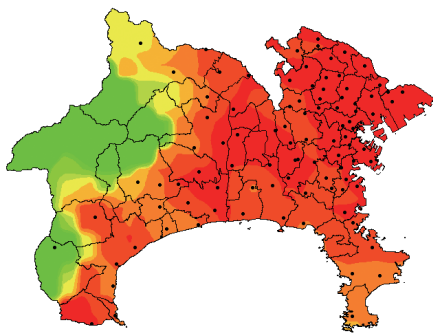
真夏日*日数の推移



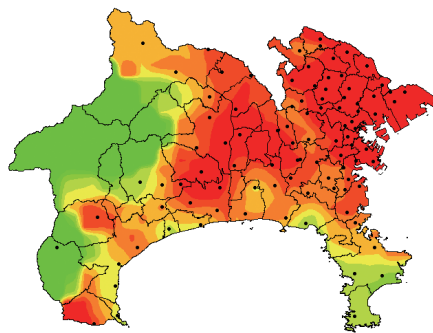
*最高気温が30℃以上の日を真夏日といいます。

気象庁 過去の天気データを基に作成より

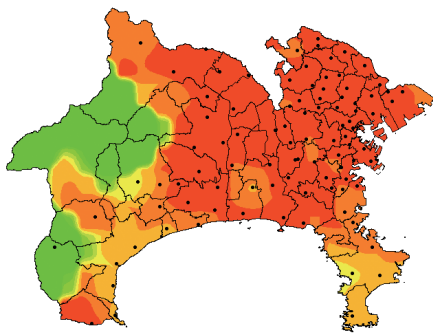
神奈川県内におけるヒートアイランドの発生状況



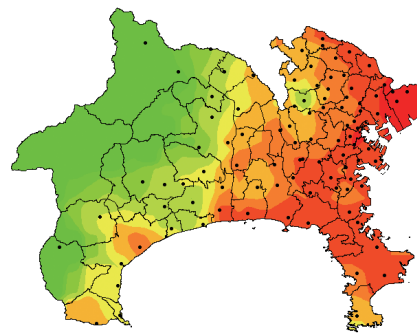
令和元年8月の平均気温



令和元年8月の30℃以上の延べ時間数



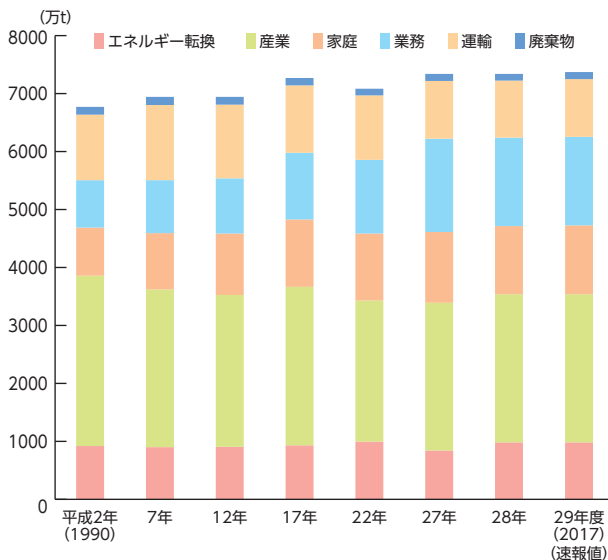
令和元年8月の真夏日の日数



令和元年8月の熱帯夜の日数

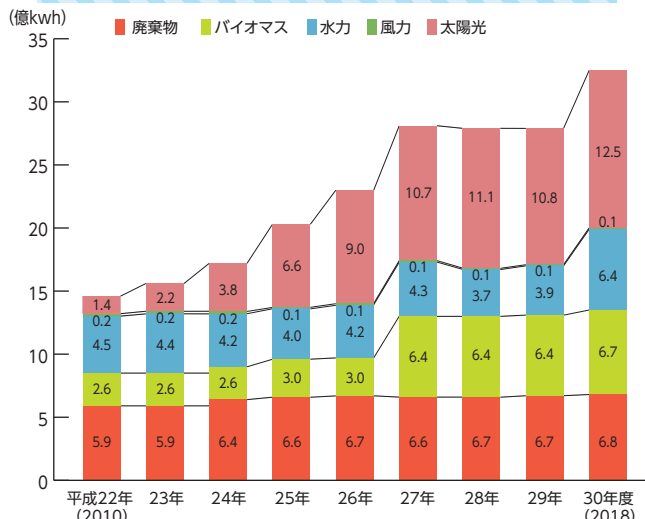
神奈川県内におけるヒートアイランドの発生状況
令和元年度(神奈川県 環境計画課)より

県内の二酸化炭素排出量の推移



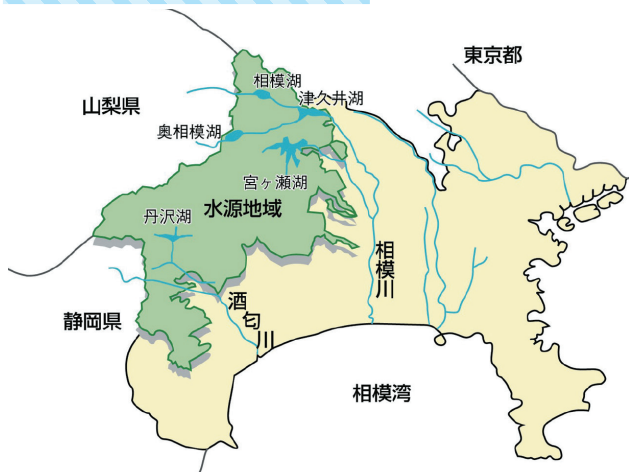
「2017年度県内の温室効果ガス排出量（速報値）推計結果」について（神奈川県 環境計画課）より

再生可能エネルギー等による発電量の推移



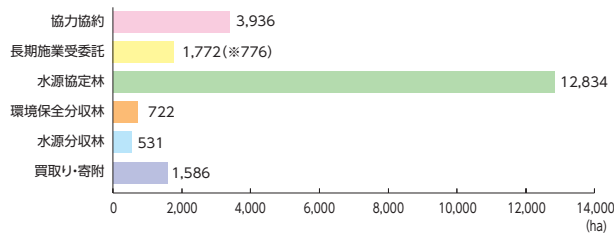
計14.6億kWh 計15.5億kWh 計17.2億kWh 計20.3億kWh 計23.0億kWh 計28.1億kWh 計27.9億kWh 計27.9億kWh 計32.6億kWh
 ※端数処理の関係上合計が一致しない場合があります。
 県内の再生可能エネルギー等による発電量の推移（神奈川県 エネルギー課）より

水源の森林エリア



わたしたちの暮らしと神奈川の農林水産業 令和2年度版（神奈川県 環境農政局 総務室）より

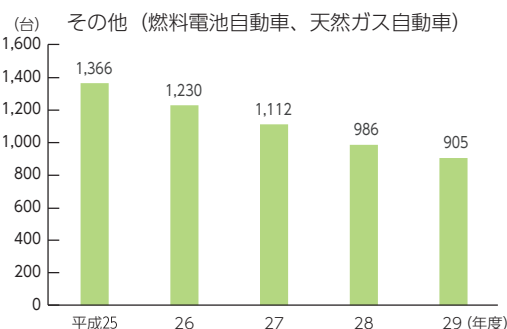
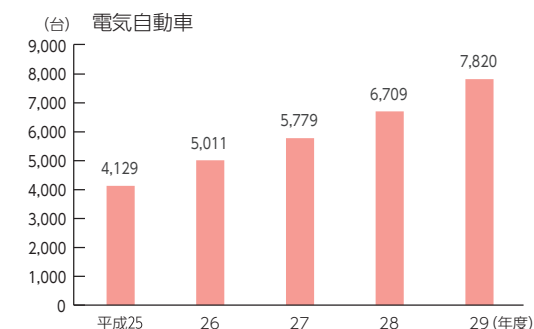
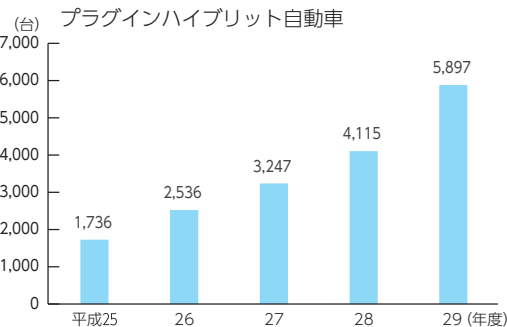
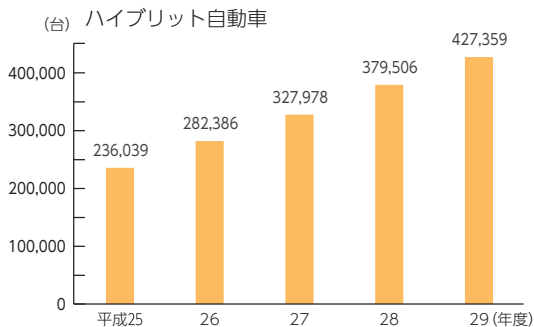
水源の森林づくりの手法



※協力協約からの移行面積で内数

わたしたちの暮らしと神奈川の農林水産業 令和2年度版（神奈川県 環境農政局 総務室）より

県内の低公害燃料別自動車保有車両数



*自動車保有車両数には、軽自動車は含まれません。

令和元年版かながわ環境白書より引用（神奈川県 環境計画課）より

2 地域の景観を生かしたまちづくり

これまで、人口増加や経済成長に対応し、経済性、効率性及び機能性を重視した都市整備が進められてきました。しかし、成熟社会を迎え、画一的な都市景観のあり方が問われている中で、地域の特性が再認識され、人々の多様な価値観を満たす魅力ある空間の形成が求められています。景観づくりに当たっ

ては、県民等と行政が一体となり、地域の自然、歴史、人々の生活、経済活動などとの調和を図るとともに、豊かな生活を追及し、未来へ継承していくことが必要です。

邸園文化圏再生構想



邸園文化圏再生構想 県HPより引用（神奈川県 都市整備課）より

邸園文化圏再生構想とは、相模湾沿岸地域一帯に残る、邸宅、庭園や歴史的建造物（以下「邸園等」）について、所有者、県民、行政などの協働により、新たな文化発信の場や地域住民と来訪者による多彩な交流の場として、保全活用し、地域の活性化につなげようとする構想です。

大磯近代歴史文化公園ゾーンの形成



大規模な邸園群が集積している大磯町では、緑豊かで歴史的なたたずまいが楽しめる公園的なゾーンを形成するため、「旧吉田茂邸の再建と公園整備」、「邸園の特別公開」を行うなど、歴史や文化を活かした魅力あるまちづくりを所有者、町などと連携して取り組んでいます。

また、平成 29 年 11 月に「明治 150 年」関連施策の一環として、国と地方公共団体との連携の下、「明治記念大磯邸園」を設置することが閣議決定されました。

県HP「邸園文化圏再生構想」より引用（神奈川県 都市整備課）より